

第7回 川口市庁舎建設審議会 議事要旨

日時：平成25年7月23日(火) 14:00～16:00

場所：朝日環境センター・リサイクルプラザ棟4階 研修室

出席者：委員名簿の通り（欠席者 1名）

委員が2名辞職したことに伴い、新たに2名の委員が就任した。

(概要)

- 川口市新庁舎建設地選定のための評価の視点（案）に対する意見募集結果について説明が行われ、評価の視点について変更を加えるような意見は無かったことから、評価の視点（案）には修正を加えないことについて審議会の合意を得た。
- 第6回審議会までの議論内容、パブリック・コメントの結果を踏まえ、会長から答申に向けた論点整理について説明が行われ、その中で「大規模災害の発生に際し、市庁舎は対策本部として重要な役割を担う必要があり、新庁舎建設の推進が市政上の急務であること」、「当審議会は、客観的データを基に判断する場であること」の2点が確認された。
- 新庁舎建設地の選定等について、すべての委員から意見が述べられたが、現在地及び市民会館敷地が適切とする意見とSKIPシティC街区敷地が適切とする意見が拮抗した結果となり、他にも、市から提示された規模などの条件においては判断が難しいという意見もあった。
- しかしながら、当審議会においては、所与の条件の中で客観的データに基づき議論を行うことが確認された。
- 次回については、これまで議論された内容や各委員の意見を踏まえ、会長・副会長による当審議会におけるとりまとめ案について議論を行うことになった。
- 次回は、8月8日(木)午後2時から、本庁舎5階大会議室で開催することとなった。

(審議内容)

会長

ただいまより、第7回川口市庁舎建設審議会を開会致します。
本日の出席委員は、過半数でありますので、「川口市庁舎建設審議会条例」第7条第2項の規定により、この会議は成立しております。

それでは議題1のパブリック・コメントについて事務局より説明を求めます。

事務局

(事務局から説明が行われた。)

会長

只今の説明に対し、ご意見・ご質問があればお願いします。

前回議論したように、このパブリック・コメントは視点が十分かどうか、誤りがあるかどうか、そういう観点での市民の皆さんの意見を求めるのが主目的であり、今の説明のとおり、今回のパブリック・コメントでは、視点に関する追加・修正等の必要性は無かったということです。

パブリック・コメントについて、ご意見・ご質問等ありますでしょうか。

全委員

(発言なし)

会長

宜しければ、先へ行きましょう。

続きまして、2番目の議題、答申に向けた論点整理について、私からご説明いたします。
私と副会長とで協同で議論して整理しました。

(会長から説明が行われた。)

ご発言を頂いていない委員もいらっしゃいますので、後半は是非皆様のご意見を一言二言発言を頂きたいと思っています。最初に、先に意見があるという方がいらっしゃったら、ご発言をお願いします。

委員

皆さんの意見を聴くことは大切だと思います。

耐震性の問題で新しい庁舎が必要であり、候補地として現在地かスキップシティかという話でしたが、今回の検討のスタート時点での庁舎建設に求められる延べ床面積は4万㎡が必要という前提が間違っているのではないのでしょうか。

1期工事案における仮設庁舎に必要な床面積が1万5000㎡で十分であれば、新庁舎も同じ面積で良いのではないのでしょうか。だとすれば、現在閉鎖中の市民会館は1万5000㎡程度であることから、市民会館の土地に新庁舎を建て替え、現在地は広域スペースとして駐車場等に活用することにより、現在地での建替えの方が建設コストも安く短期間で済むのではないのでしょうか。

また、新庁舎建設後は、新しく耐震性も優れている鳩ヶ谷庁舎や第二庁舎、水道庁舎を用いないとありますが、無駄だと考えますし、一箇所に市役所の機能を集約する必要は必ずしもないのではないのでしょうか。

皆さんに認識して頂きたいのは、1万5000㎡で新庁舎は十分ではないかということです。

会長

前提条件の問題ですので、事務局の方で1万5000㎡ではなく、4万㎡が必要だという考えを述べて下さい。

事務局

延べ床面積の4万㎡の数字については、庁舎の分散化を解消し、統合化することを前提としています。川口市の人口及び同程度の人口の市の平均等から算出された値であります。4万㎡は、絶対のものではなく、あくまでも仮おきの数字です。1万5000㎡の仮設庁舎というのは、現在の庁舎を移転した場合の数字です。

委員

人口から必要な面積を算定するのは理解できません。

仮設庁舎は1万5000㎡であり、3年間、市の行政サービスの運営が可能であるならば、新庁舎も1万5000㎡で十分ではないかと申し上げているのです。

事務局

床面積について詳細に議論を行うには、庁舎にどこまでの機能を持たせるのか、分散化をどこまで進めるのかという検討を行う必要があると考えています。そのため、延べ床面積4万㎡を仮の値として置いたものであり、最終的な数値ではありません。

会長

以前より、面積については議論を行ってきました。

その結果、延べ床面積は4万㎡と置いた上で、検討をすることとなっています。この場で

は、これまでの事務局、市や議会で議論されてきた前提で議論しましょうということになっています。委員ご指摘の議論を持ち出すとなると、結論が出せないということになります。市で揉んできた条件の中で議論するのが、我々の立場だと思っています。

委員

スキップがなければ当然現在地の建替えで進んで良いのでしょうか、あれだけの広い敷地のある中で、どうして仮設庁舎 20 億をかけて建てる必要があるのでしょうか。市民は納得できないのではないのでしょうか。

工期も現在地において建替えより短い。また、川口市はこれからも発展していくまちであり、目先だけの必要最小限の規模として 1 万 5000 m²でよいという意見は将来性を考えていない意見ではないのでしょうか。20 年 30 年先を考えると 4 万 m²となったのでしょうか。

また、スキップシティ周辺は開けた地域であり、発展性がある場所である。市の将来性と発展性を考えた場合、スキップが適地だと思いますし、現在地での建て替えは理解ができません。

また、市職員の通勤手当の問題を挙げる場合がありますが、毎年 4 月の異動の際通勤手当を問題にする意見は無いはずで、よって通勤手当等は問題になりません。なによりも防災性、市の将来性、発展性を考慮した上で、建設地を決定すべきだと思います。

委員

スキップシティか現在地かという点について議論を行ってきており、新庁舎の規模や機能については諮問されていないという意識でありましたが、今の委員の意見を聞き、どの程度の機能を持たせるかで必要な敷地は変わってくるのではと思うようになりました。

委員の意見でも規模に触れる意見がありました。話の焦点が絞りきれいでないのに噛み合わない気もしますので、やはり必要な機能・規模を議論した上で、建設地に関する議論を行うべきではないのでしょうか。会長に話しを整理していただけないのでしょうか。

会長

規模だけでなく、市庁舎の機能や支所などの出先機関との関係性について、議論を深めるべきという考え方は間違っていないと思います。市庁舎の在り方について十分議論をした上で、候補地を議論するというのが最も良いことだと思います。ただ、前提として震災対策を考慮し、新庁舎建設を急ぐ必要があります。

急ぐという中で、万全の与条件の整理はできない中で、ある程度の整理はしている。その中で議論をするというのがこの場です。ある程度の整理準備が全く不十分なら、議論できないというのは考え方です。必要な機能については、議会を含めて市役所内で既に議論を重ねてきており、庁舎機能を集約し、出先との関係は変えない、その結果延べ床面積 4 万 m²という値を算出され、本審議会はこれを前提に置いて検討しています。仮に本件につ

いて詳細に議論を行った場合には、私の経験から推測すると最低でも 2 年程度は要するでしょう。

副会長からも意見を求めたいと思いますが。

副会長

建設地移転に関し、機能面や必要面積等について議論を行いますと情報が錯綜し、結論が出ず、会長の述べるように相当な時間を要してしまいます。

議論を行なっている期間は、耐震性に不安のある現庁舎のまま業務を行うこととなります。今は災害対策を考慮し、一刻も早く、限られた情報・限られた期間において結論を出さなければならないという状況ですので、これらを前提として議論を行っていただきたいと考えます。

会長

各委員からの意見を求めます。

委員

私は主婦としての立場からですが、鳩ヶ谷駅からスキップシティ C 街区まで実際に歩いてみたところ、気持ちの問題かもしれませんが、川口駅から今の市庁舎と比較すると距離があると感じました。これからの発展という話もありましたが、今後どうやって発展するのかということが描けませんでした。私たちが市役所に行く際は、買い物や食事をするなど立ち寄ることがあるのですが、スキップシティに移転したらそれが出来ないと感じました。既に大型ショッピングセンターが根岸と前川にある中で、そこまでも距離もあるし、スキップシティに新たなショッピングセンターのような場所ができるとは考えにくいと思いました。当初は建設費等の問題からスキップシティが良いと思っていたのですが、現在地での建て替えに意見が傾いています。ネックとなっている建設期間についてもより詰めていただき、そちらを考えてみるのも良いのかと意見が変わってきている状態です。

会長

今の話がでたので、建設期間をつめた結果、半年の差までつめられるということになっています。その前提が 1 万 5000 m²の仮設庁舎に要する土地が必要となっています。この仮設庁舎の建設予定地について、事務局はどう考えているのか説明を求めます。

事務局

半年の差となるのは、1 期工事の場合で、1 万 5000 m²の仮設庁舎の建設地を確保する必要がありますが、現時点では特定の土地を想定しているものではありません。

可能性があるのはスキップシティ B 街区、NHKから借りているスキップシティ C 街区

などが考えられます。

委員

私は川口駅の西口に生まれ、今も西口に住んでいます。スキップシティに庁舎が移転すると聞いた時に寂しさがあり、川口駅から遠くなると、市のシンボルが遠ざかるので寂しさを感じました。女性的考えかもしれませんが、サッポロビール跡地のアリオやキャラの時など新しい施設が出来るときには何か期待感もあります。市役所は違うかもしれませんが、市役所内に工夫して介護ホームや保育園を入れてもらえるならと思いますし、贅沢を言えば市の物産を用いたレストランや商業施設等を入れてもらえたら、たくさん人が集まるのかなと考え、移転して新しい施設が増えて良くなるのかなとも思っていますので、正直迷っています。

委員

商工会議所の会頭の立場で、市の特に商業者のことを考えると、現在地に建て替えることがベストだと考えています。川口市の発展のためにはスキップシティへの移転が良いという意見もありますが、40～50年先には人口は減っているかもしれません。トレンドとしては人口は減少するのです。スキップも開発されるだろうと期待していたのですが、現実には開発はされていませんし、スキップシティからはコンビニが撤退したこともあり、スキップシティに市庁舎が移転したところで周辺がどんどん開発されることは必ずしも見込めないと考えています。今の庁舎の周辺が寂れてしまうというマイナス面もあり、今のところに建替えるのが適切だと思っていますし、大きさのことを考えると問題ないと思っています。

委員

鳩ヶ谷は庁舎を300～500メートル程移転しただけで、中心の商店街は半分以下になりました。これは周辺に大型店が出店したこともありますが、本町の商店街は半分以上の方がシャッターを閉め、同時にほとんどマンション・アパートの建築になり、出入りする人も減りました。

鳩ヶ谷の庁舎は職員5～6百人でありましたが、それでも移転前は商店街はひらけていて良かったのですが、移転しただけであのような状態になり、商店街を歩く人も減ってしまいました。商店会の代表で来ているので言えることです。

やはり50年以上の歴史を持つ川口市庁舎の現在地を活用し建て直し、周辺の鳩ヶ谷庁舎、第二庁舎等を活用して、残していくことが良いのではないかと考えます。

委員

主婦の立場で、色々なグループの方に聴いたところ、現在地という方がほとんどでした。

バスにしてもスキップシティでは川口駅で降りた後、またバスに乗る必要があるとの意見も多数いただきました。主婦としては、市役所へ出かけたついでに買い物ができる環境が必要ではないでしょうか。そのため、スキップでは不便であるので、現在地での建て替えを求める声が多くありますし、私自身もそのように考えています。

委員

年間の来庁者から算出すると、市民は1年に1回程度訪れるかどうかであり、行政サービスを受けるには、その程度の頻度であれば市庁舎の立地場所は大きな問題とはならないと考えています。

ただ、職員の問題があり影響も大きいと思います。職員は消費者でもあり、近隣の経済的影響もあろうかと思っています。

これまで検討されていなかったのですが、移転した場合、現在地の場合、何十年何百年後にCO₂の発生量がどうなるのか、我々の決定次第で負の遺産を残しても良いのかと考えます。仮にスキップシティに移転した場合、職員の移動に伴うCO₂発生量がどの程度増減するかを検証すべきではないのでしょうか。

川口市長は高温化対策について市をあげて実施しているとおっしゃっています。

スキップシティに移転することによりこれまで駅から徒歩だった職員が、駅からバスを利用することにより、CO₂が増えるのではないかと危惧しています。皆さんにこの一点を庁舎建設地検討の一つの要素として考慮すべきではないのではないかと考えています。

会長

CO₂は大事な話題ですが、もっと総合的に考える必要があるのではないのでしょうか。

副会長

二酸化炭素の排出量が増えるのではないかという点ですが、排出量は移動距離よりも渋滞等の発生による影響が多きいと考えます。また、個々人が自動車を利用するよりも、バスを利用したほうが合計の排出量は少ないでしょう。差異が出る程とは想定できません。

委員

東川口の戸塚地区は区画整理で伸びたところで、10年位前の戸塚のけやき通りは発展し店舗やスーパーができましたが、最近、地下鉄浦和美園駅にイオンモールができて、皆けやき通りは通過するだけとなってしまいました。市庁舎が移転しようが、行政は見てくれないと考えます。

戸塚地区の連合町会としては13町会ありますが、距離的にも避難時の災害的にも戸塚地区はスキップシティが良いという意見であります。交通面についてはモノレール等を造ることにより便利にしてもらい、庁舎を少ない予算で建て、CO₂の削減もできるのではない

かと考えます。

委員

スキップシティと現在地の間で、スキップの方が近いのですが、青木地区の代表としては、現在地での建て替えを希望しています。法務局もあり、司法書士への影響もあります。ふじの市通りや銀座通り商店街への影響、また百貨店の撤退も噂ではありますが聴いています。川口市駅周辺商業繁栄のためにも、現在地または市民会館敷地での建設を希望します。

委員

利便性を説く意見もありましたが、防災拠点としての芯のための一つの合同庁舎を是非造って頂きたい。そのための建設費、並びに地理的なものも含めまして、また将来を考えまして、スキップシティと考えています。

委員

再三述べているとおり、早急に現地点から離れて、スキップへと考えています。

現庁舎の職務スペースをみますと、職員の机等を見ていると窮屈な仕事をしています。環境が良くない中で、何故良い仕事ができるのかとも思いました。例えば、一階の介護、福祉の関係のところは狭隘で、どこにお客さんがいて、どこが事務所なのか、全然わかりませんでした。早く広いところで、伸び伸びと環境の良いところで仕事をしてもらうためには、早くスキップへ移転すべきと考えます。

新郷地区では、第二産業道路を通り、鳩ヶ谷からスキップへ行けば、立派な路線ができるのではないかと思います。真剣に考えているのかを提案したいと思います。

交通の利便性について、移転した場合にはそれなりに改善するはずですが、今の所は慣れ親しんでいるために、未練が残るのだと思います。出来てしまえばそれなりになると考えています。新郷地区の連合町会でも、自動車利用なら時間的には、今の市役所まで15～20分かかります。朝日の環境センターの前から混み合います。

スキップシティなら10分強で行きます。変電所経由で真っ直ぐですし、交通もスムーズに流れます。何回も審議をしないで、早急に結論を出していただくことをお願いしたいと考えています。

委員

審議会の始まった時に、賛否を採られるとなった時に、私一人の意見では大変重い決断だなと思ひまして、地区の連合町会長として34の町会長に集まっただき、意見を伺ったところ、全ての34町会長が、細かいことは別にして、スキップシティが良いという意見でありましたので、あらためて回答させていただきます。

委員

私も、毎回スキップシティだと申ししています。

現庁舎が良いという意見もありましたが、色々なところから聴きますと、これからのことを考えますと、スキップシティへの移転だという声が直ちに返ってきます。ただ、仮にスキップシティへ移転したとしても、現庁舎周辺の街並みを維持する必要は理解しなければいけないと考えますし、フォローすること必要と考えます。現庁舎跡地には、2～3年程度で建築でき、街並みと一緒に繁栄できるようなものを考えて、業種を整備する必要がありますし、お互いに繁栄できれば良いのではないかと考えています。

委員

市の将来の発展を考えますと、市の東北部にどんどん進展し、開発されていくものと考えています。それを示すためにも、いつまでも市街地に執着すると前進は望めないではないでしょうか。郊外の方にももう少し目を向けるという意味でも、スキップの方に移転していただくのが良いかと考えます。

先程、仮設庁舎をスキップシティという話もありましたが、スキップに仮設を建てたらスキップの方が便利だったといわれた時にどうするのかということもありますので、どちらかと言われれば、スキップに新庁舎を建設した方が良いと考えています。

委員

私は鳩ヶ谷の人間です。今、与えられた条件の中でどちらの建設地が良いかということであれば、スキップシティだと考えます。特に今の建物を活かして分散するという考えもありましょうが、今回の議論では、集約した官公庁街のようなイメージで一箇所に集約という条件があるとすれば、なおさら市の地理的中心でもあり、広さも確保できるので、与条件下の判断なら、どちらかといえば100%近くスキップシティが適当だろうと考えています。

委員

前提として確認したいのですが、4万㎡の扱いについては議会でも揉んできたという趣旨の会長の発言でしたが、4万㎡という数字自体については議会の合意事項ではないということを確認して頂きたいと思います。あくまでも役所サイドとして提起されたのが4万㎡で、その上で議論をしているというだけで、今後、本当に必要な面積はどれ位なのか、役所の機能をどう分散、集約させるのかという点は、今後の議論の対象だと理解し考えています。

当初から申し上げていますが、新庁舎に求められる機能・規模が決まらない状況の中で、場所を優先して決めることには違和感を覚えており、その意見は今も変わりません。そのため、審議会の持ち方自体に無理があったのではと改めて感じています。ただ、会長や副

会長のご発言の通り、機能や規模も含めて全てを検討するとなれば、2年以上の期間を要するという状況も理解できますし、余裕がないというのも理解します。

ただ、もう少し時間をかけて、役所の必要な機能・規模を、どう捉えて、どのように市内に配置するのかの議論すべきではと考えているため、あえてこの場においては、どちらの建設地が好ましいのかについての発言は差し控えたいと思います。

委員

各町会長には、地域を代表した立場であること、地域性を踏まえた代弁として意見を述べていただきたいと考えます。

私は地元の商店ですが、スキップが完成しても、恩恵など何ともありません。周辺の商店は減るばかりです。小売などについて言えば、バックが大資本のコンビニなどが持っているのが実態であり、本当の中小零細は何も恩恵も受けないのが実態なのです。

今回の庁舎問題については、何が大切か、市長が申しているとおおり、安心安全が第一なのです。利便性が伴わないといっても、なんと言っても安心安全が優先されるべきです。

震度7以上の地震への対策、地域づくりが必要であると内閣も述べています。大災害の時に、どのように市民の安心安全を守るかを議論すべきが第一義です。浸水マップによれば、現在の庁舎周辺は広範囲において浸水してしまいます。

新庁舎に求められる規模の大小については、後からどのようにでも変更可能です。場所の選定だけはここにしましょうということで決定して頂きたいと考えます。

多くの委員は新庁舎の利便性に注目しているが、何よりも防災機能が重要です。土壌が弱い所でも、しっかりしたものを建て安心して誘導させる、そのために早くスキップシティへ移転していただきたいと考えます。

委員

議会においても、延べ床面積4万㎡という値についても決して合意事項ではないと理解していますし、審議会の開催以降の特別委員会の中では、いろいろな可能性を含めた議論が行なわれていると聞いていますので、前提条件に対する考え方が多様になっているのではないかと考えています。

そのため、現時点ではどちらの建設地が良いかという点については、答えを出せずになります。前回の審議会においても、会長、副会長からは、本審議会は2つの候補地のうち、一方を決定し、決定した候補地について審議会としての答申を市長へ提出するというところをご説明頂きましたが、やはり、出来る限り答申を行う際は両論併記の可能性についても検討して頂ければありがたいというのがあらためての私の意見です。

委員

市役所は街のシンボルであるという観点から意見を述べさせていただきたいと考えます。

市政 80 周年を今年迎えましたが、今までの歴史を辿ると、市は市庁舎を基点として市役所通り中心に栄え、埼玉県の大関口としての川口駅ということから、多額な税金と歳月を掛けて川口駅前再開発も完成をさせました。

市の顔として市役所を考えねばいけないと思いますし、庁舎建替えにあたりいろいろな自治体を視察に参りましたが、例えば、那覇市役所のように当初移転予定で用地買収まで完了したにもかかわらず、国際通りの狭隘な土地ではありましたが、現在地に建設したという事例もあります。議会も苦渋の選択だったと思いますが、庁舎の移転は非常に重いものでもあり、慎重に考えるべきものであり、今後とも市のシンボルという点で考えるならば、苦渋の選択なのですが、現庁舎が適切だと考えます。

委員

会長による論点整理について、大事で大賛成で非常にわかりやすく判断するのに的確な論点整理だと高く評価しています。

庁舎建設地検討において一番重要なことは、川口市が発展するか否か、耐震を持たせることができるかということです。防災性に鑑みると、工期については完成までを 5 年以内に行う必要があると考えています。

現在地での建て替え工期については、規模がどうであれ、閉鎖している市民会館敷地の土地を利用し、必要な延べ床面積を確保できるよう、高層の庁舎を建設し、完成後に現庁舎より全面移転することで、仮設庁舎も不要で、市民サービスの低下も防ぐことが出来、短期間で移転が実現できると試算しています。

そのため、現庁舎敷地及び市民会館敷地に新庁舎を建設する場合でも、工期については問題にならないだろうと思っています。

よって議論すべきは、移転するしないによつての川口市の商業の発展性だと考えています。

川口市は現在の市庁舎周辺地域を中心として発展してきており、移転すると今後のまちづくりに大きな影響を与えかねません。庁舎の移転は、川口市の更に発展を続けるためにも大変重要な問題であります。

他の自治体を見ても駅の近くのところは元の場所に建て替えています。そのため、現在地への建替えを求めたいと考えます。

会長

市民会館敷地に建設すれば短期で終わるとのことでしたが、その手法は資料中の II 期工事案であり、その際の工期は計 10 年を要します。先程、ご提案いただいた工法については、新たな案として加えると共に、7 年で建設が完了するスキップシティへの移転と工期について比較検討する必要があります。

委員

私は最初から、庁舎移転によるダメージ、デメリットが大きいだろうという点を主張していますし、今でもそれは変わりません。市役所に4町会が接しており、庁舎移転に伴う空洞化をいずれの町会長も懸念しています。店の衰退ではなく、地域的に庁舎を中心として発展してきた地域であるため、より大きな影響を受けると思います。

また、庁舎の移転に伴う損失額は推計された約7億円という値が報告されていますが、それは顕在化した金額でありますので、目に見えない顕在化しない負の影響も相当程度あること、1年ではわからないが長期間にわたれば大きな影響になるのではないかと懸念しております。庁舎周辺だけでなく中心市街地の駅周辺にも徐々に大きな影響が及ぶのではないかと考えています。それを補うものは考えられないということも考えています。川口市の街づくりとして、庁舎は移転するべきではないだろうと最初から考えています。

また、将来を考えたら移転は慎重に判断すべきであり、他の委員の方々の発言にもある通り、延べ床面積4万㎡ありき、という考え方には当初から疑問があります。

さらに、建替え方法についても、市民会館跡地に市民が訪れる頻度の多い部所や窓口は先に移転し、市民が直接関わることの少ない、市民のほぼ行かない部所や議会については移転順序の優先度を下げること、市民サービスの低下を最小限に防ぐことができるのではないかと考えています。

庁舎は市のシンボルであり、シンボルとなる庁舎は安易に移転すべきではないという考えは変わりません。他の自治体の視察の例からみますと、大部分の市は現庁舎の近接地か、現庁舎を壊してもその場に建て替えていることに鑑みても、庁舎の移転の影響は大きいということを考えて現在地に建替えているのかと思います。本市においても、現在地において建て替えるべきということについては変わりありません。

委員

私も、4万㎡については以前も意見しましたが、4万㎡ありきという考え方には、拡大の時代は終わってきている訳で、疑問があります。支所機能を充実しながら、1万5千㎡から2万㎡で済むのではないかと考えています。

便利に一箇所にといい時代ではなく、分散機能の発揮により、なんとしてもお金をかけない庁舎を建築すべきと思いますし、庁舎を中心に周囲が発展してきた背景もありますし、特に近隣の商店街への影響もあります。

長い歴史を踏まえ庁舎があるわけですし、私もいろいろと他市を視察しましたが、庁舎は大体、現在地かその近辺が多いので、それも添えます。

委員

今日、会長から論点整理として、特に吟味するということで期間とコストをここに挙げていただきました。

特別委員会では、現庁舎は震度 6 強には耐えられないとのことであり、耐震診断も終わり、市民・職員・来庁者の生命を安全に確保するという事を、期間として最優先に考えると、現在の資料によりますと、スキップ移転のケースは工期が最も短くなっています。しかし、先程、ご提案いただいた 2 期工事案では、市民会館跡地に 1.6 万㎡の建設をすれば、市民等の生命の安全を確保できる工期については、スキップシティに大きいものを建てるよりも短期化が図れていると考えますし、金額的にも 238 億円で 2 期工事がトータル的にも一番安くなっています、論点の一つの見方にもなると思っています。

また、街の発展性についてですが、ご承知のとおり、市内の市立高校 3 校を統合する予定であります。場所については上青木の総合高校に集中して校舎を造り、市立川口についてはグラウンドとして活用し、県陽高校については現在売却を含め跡地利用について検討することになっています。そういった意味で、スキップシティ近隣に大規模な総合高校ができるという意味で、街の発展は担保できるのではないかと考えています。

ここで、特別委員会の報告をさせていただきます。これまで特別委員会では、この庁舎建設審議会を受けての報告もあり、自ら 4 万㎡ありきで良いのかという議論もあり、1 万㎡以上ある鳩ヶ谷庁舎の活用等いろいろな議論の最中です。

その中で、特別委員会では NHK の跡地を活用するということから、NHK の考え方を聴いたらどうかという意見があり、正副委員長で NHK に直接訪問して参りました。NHK の専務理事、経営企画局長、経営企画局専任部長の三方とお会いしました。

NHK は現在、渋谷の NHK ホールとスタジオの建替えを計画しています。更には、浦和にある埼玉放送局の建替移転を考えているということでありました。

NHK の考え方としては、NHK ホールは渋谷からの移動は考えられない、手狭なスタジオについては切り離して考えねばならないということから、今適地を探しているという報告であり、スキップシティも考えられるとのことでありました。

埼玉放送局については、今、大宮駅東口にある再開発ビルに入るかどうかの検討中とのこと。しかし、埼玉放送局は、他の近県の放送局とは異なり、いざという時の核となる放送局なので、複合施設では問題はないのかと言う話もあるそうで、それならスキップシティにどうぞお越し下さいということに要望させて頂いたところです。

私自身どちらが適地かということについては結論に至っていませんが、先程の示された論点、上青木の街づくり発展性、川口駅周辺の現状を考えて、真剣に考え結論を出すべきであると考えています。

会長

最後に、まとめていく副会長にコメントを頂きたいと思います。

副会長

今日は、会長が答申に向けた論点整理ということで、特に皆さんに念頭においていた

きたい点を出して頂き、それを踏まえて率直に各委員の方々には考えを述べて頂き、参考になりました。今まで 6 つの論点について、出来る限り客観的なデータに基づき判断しようということはあったのですが、それに加えて、皆さんのいろいろな地域に対する想い、考え方が相当根強いのだというのも良くわかりました。

私は外部から市長の委嘱を受けて審議会の委員として参加させて頂きまして、一番の喫緊の課題は安全安心の確保が大事だと思っておりますが、それと匹敵できるかどうかわからないが、いろいろな想いを考えなければいけない、ただ審議会としては出来る限り、今までの議論を踏まえて、出された諸情報を勘案して、極力客観的な判断をしたいと思っております。

私としては最終案の答申に向けて、たたき台を会長とともに作っていきたいと思っておりますが、今日、あらためて皆さんのいろいろな想いをうかがって、なかなか難しい課題だなとあらためて認識いたしました。

そういう意味で、どういう形でこれから答申案をとりまとめていくか、会長とよく相談したいし、事務局とも相談したいと思っておりますが、今日出された多くの意見全て盛り込めるかもどうかもわかりませんし、ただ冒頭の論点整理に出されたように、各委員には、いろいろな地域への想いもあるでしょうが、出来る限り今まで出されたデータに基づいて判断していただくというのも大事ではないかと思っております。

今までの議論を我々は整理したいと思いますし、それで議論がうまくできればなと思っております。

会長

皆さんにご意見を頂き、副会長がまとめていただいたような形で私も理解しました。

皆さん、是非これだけは確認しておきたいのですが、議論のスタートは庁舎の建替えが急がれるということ、これについては異論はないですね。

防災上の観点から、どれだけ急ぐのかという点については、何人かの委員から検討とは違う可能性があるという提案いただきましたが、吟味したいと思います。

また、中心商業地域、中心市街地にどの程度のダメージがあつて、跡地利用はどのように工夫しても対策は困難なのかという点は大きな詰め所でもあります。これを詰めるのに規模が煮詰まっていないこともあり、結論がでないとなつていき、そこで両論併記の可能性もなくはないが、但し、両論併記は情報不足だから両論併記ではない。情報不足はこの情報がつまらない限り我々は判断できないという判断停止的答申なのです。

両論併記は、こちらの価値観を優先すればこちらの案、もう片方の価値観を優先すればこちらの案といったものです。

これらを考慮して、副会長と吟味して出来れば次回に出せば、もしかしたらもう一回ということになるかもしれませんが、その時はご容赦願います。

それでは、その他について事務局から説明を求めます。

事務局

次回、第8回審議会の日程については、平成25年8月8日木曜日の午後2時から、本庁舎5階の大会議室で開催したいと存じますが、いかがでしょうか。

会長

次回、第8回の日程につきまして、事務局案のとおり、8月8日木曜日の午後2時から、本庁舎5階大会議室で開催いたします。

本日の審議会は以上をもって終了します。

以上